

みずほオフィスマネジメント株式会社 グループ全員でVBAエキスパートに挑戦 業務のスピードアップと品質向上につながるスキル習得を実感

総務・庶務などの受託業務を担うみずほオフィスマネジメント株式会社。2011年の5月、同社の企画・人事部 システム総括グループでは、一人ひとりのスキルアップを組織貢献につなげるべくグループ全員でVBAエキスパートの取得に挑戦。

資格取得をひとつのゴールに、チームが一丸となって取り組んだきっかけや習得したスキルの活用について同グループ長の北村省吾さんにうかがいました。

全社的な自己啓発運動がきっかけ

—— 挑戦目標にVBAエキスパートを

2004年に設立されたみずほオフィスマネジメント株式会社は、グループ各社の総務・庶務やシステム管理などの受託業務を手掛けています。いわばグループのバックオフィスの役割を担っている同社では、大量のデータを扱うことも多く、社員はほぼ毎日Excel[®]やAccess[®]を使っています。そんな同社の企画・人事部のシステム総括グループでは、2011年5月、VBAエキスパートの受験にメンバー全員が挑戦してVBA^{*1}スキルを習得。その経緯について、同グループ長の北村省吾さんにうかがいました。

「きっかけは、2010年からはじまった『自分をみがこう』と題した全社的な取り組みです。これは、“自分自身のスキルアップを通じて組織貢献を目指す”という運動で、当グループではパソコンスキルを向上することで組織貢献をしようという目標を掲げ、VBAエキスパートの資格取得に取り組むことにしました」

数あるパソコン関連の資格からVBAエキスパートを選んだのは、「学んだことが、実際の業務に直接役立つと考えたから」と北村さんはおっしゃいます。

「当社のように、グループ各社からの受託業務を担う企業では、迅速に対応する“スピード”と“仕事の質の高さ”が求められます。そしてそこにはVBAスキルが不可欠になると考えました」

VBAスキル習得の狙い

—— コスト軽減、スピードアップ、品質向上

例えば、同社がVBAスキルを活用する業務のひとつに、グループ各社と連携したデータ処理業務が挙げられます。委託元各社においてはERP^{*2}を導入している拠点も多いなか、数万件、

数十万件のデータをもとに検索・加工する業務が頻発し、そうした機会にはVBAスキルが活きてきます。

「仮にERP上で業務に必要なレポート等の実装をカスタマイズや開発で対応するとしたら、膨大なコストと時間が必要です。当社では、ERPからCSV形式やテキスト形式でデータを出力し、それをExcelやAccessに取り込んで処理します。そのときに、ExcelやAccessの操作スキルに加えてVBAスキルがあれば、膨大な量のデータを早く、正確に処理できます。また、これまで数時間かかっていたデータ照合等の作業もVBAスキルがあれば数十分で完了するスピードの向上や、手作業の積み重ねや人の目で確認することによる間違いを減らした堅確性と質の向上にもつながります」

そうした北村さんのお考えのもと、グループ全員でのVBAスキル習得への挑戦がはじまりました。すでに、業務でVBAを活用している一部の社員にはさらに力をつけてもらうため、VBAエキスパートの上位科目^{*3}の取得を目標としました。一方、プログラミングに対する苦手意識からVBAを敬遠していた社員には、こうした機会を通じて世界を広げてもらうことを意図して、まずは基礎科目の取得を目標として取り組みました。

“学びの集大成”としての全員受験

—— 一定レベルの知識をグループで共有

2011年の5月、システム総括グループの全員が“学びの集大成”としてVBAエキスパートを受験。決算をはさむ多忙な時期にも、試験に向けて勉強できたのは、「一緒に合格すること」を目指しチームが一丸となったから。“合格”というひとつの明確なゴールが、学習のモチベーションとなりました。

基礎科目に挑戦した小田妙子さんは、取得後

みずほオフィスマネジメント株式会社

所在地 東京都千代田区内幸町1丁目1番5号
 従業員数 212人(2011年5月現在)
 2004年2月、みずほ銀行100%出資により設立。主な業務内容は、みずほファイナンシャルグループの受託事務で、文書保管管理や施設・オフィスの維持管理などの総務・庶務業務。その他、不動産管理、スペース運用の企画・管理関連業務など。

取材ご協力



企画・人事部
 システム総括グループ
 グループ長
 北村 省吾 さん

の感想を次のように語っておられます。
 「これまではデータ処理で困ったことがあると、グループ内の詳しい人に任せていましたが、今回VBAを勉強したことで苦手意識がなくなりました。また、これまで手作業で行うのが当たり前だと思っていた作業もVBAで自動化できることを知り、業務のスピードに対する意識がさらに高まりました」

また、すでにVBAを業務で使っていた川橋光宏さんは、資格取得のための勉強が知識の整理に役立ったとのこと。

「独学でマクロを使っていたため、意外と基本的な部分で知らないことがありました。この度の受験を通じて、新しい知識と共に基礎もしっかり学べた点が良かったと思います。今後の業務のなかでは、単に自動化するだけでなく、“かゆいところに手が届く”ような行き届いた仕組みづくりができるようVBAスキルをより効果的に活かしていきたいです」

さらに北村さんは、今回の挑戦の結果として、日々の業務に対する意識の変化を実感しているそうです。

「メンバー全員に共通知識の基盤ができたことで、日常会話のなかでも、『ここはVBAで』『そこはマクロで』という言葉をよく耳にするようになりました。加えて、仕事を効率的に進めるという視点から、“この作業は自動化できるかも”とか“このプログラムは自分でできるかも…”という意識が、メンバー全員に芽生えたことは大きな収穫でした」

今後の人材育成の展望

—— たゆみなく新しいことに挑戦し続ける

VBA活用の流れがグループ内で浸透していく様子を肌で感じながら、北村さんは今後の人事育成への抱負を次のように説明します。

「新しいチャレンジをしたいと思ったとき、そこに用いる道具を知らない、あるいは使い方がわからないからできない、ということではもったいない。今回の“道具”はVBAでしたが、これからもこうした“世界を広げる”きっかけを積極的につくっていききたいと思っています」

“世界を広げる”ためのツールとして、白羽の矢が立ったVBAエキスパート。今後、その他の部署にも、同じような取り組みが波及すると予測しているそうです。

「今回の取り組みの結果、システム総括グループの合格率が高かったことから、“VBAエキスパートは数居の高い資格ではない”という認識がその他社員にも芽生えたようです。みずほオフィスマネジメントのIT化推進を担う私たちのチームから広がっていけば何よりだと思っています」

VBAエキスパートへの挑戦を通して、個々の意識が変わり、業務効率や仕事の品質が向上していく。それは、『自分をみがこう』運動が目指した、組織への貢献にもつながっていくことでしょう。自分自身の“世界を広げる”ために、常に新しいことに挑戦し続ける。たゆみなく新しい知識を吸収していく姿勢が、巨大企業を根幹で支えるぶれない軸となっているようです。

※1 VBA (Visual Basic for Applications)
 Microsoft Officeの機能のひとつであるマクロを作るためのプログラム言語

※2 ERP(Enterprise Resource Planning)
 受注・販売管理、在庫管理、生産管理、会計など企業の基幹業務をサポートする情報システムパッケージ。統合基幹業務システム

※3 VBAエキスパートの科目
 基本的な知識を問うBasic、より高度な知識を問うStandard、専門的な知識を問うProfessionalがある



VBAエキスパートに挑戦した社員の皆さん